＜草津市の医療福祉を考える会議（協議体）と地域ケア会議、「我がこと」「地域まるごと」の福祉のまちづくりフローチャート＞

ここが活動への POINT

活動の担い手確保とフィードバック

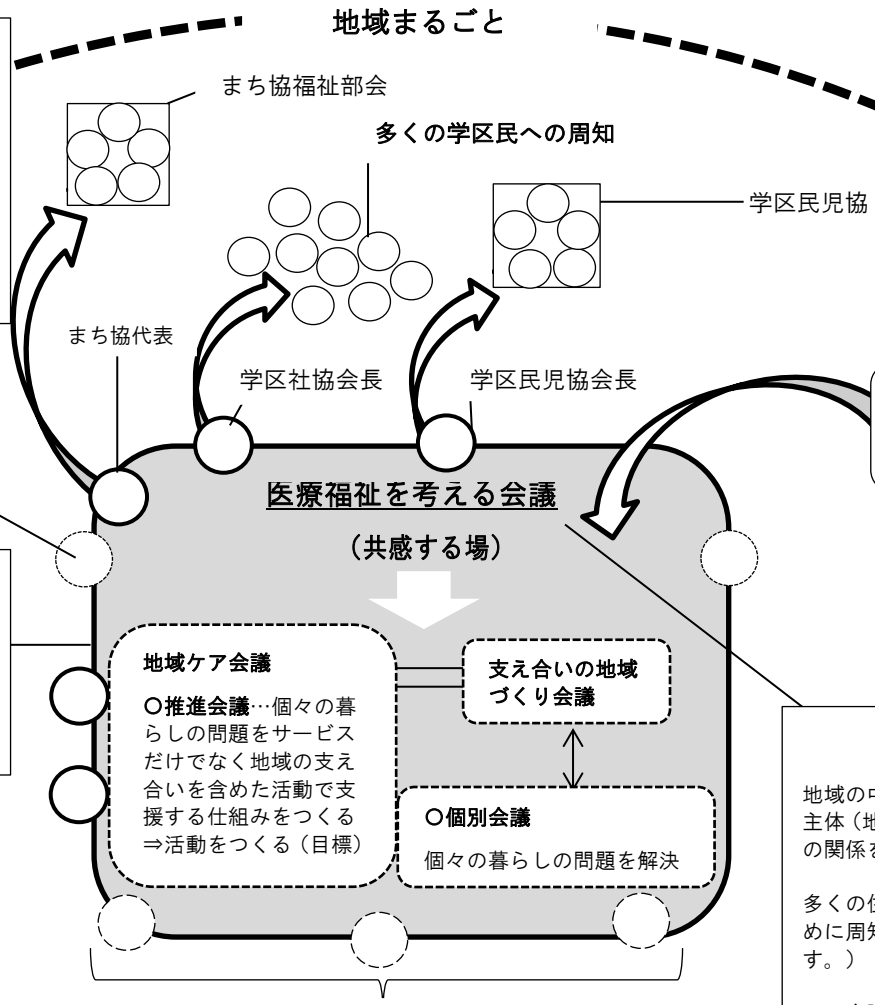
医療福祉を考える会議の内容を多くの住民に周知する。

周知することで、今までの団体だけでない新しい活動の芽をつくるためには、多くの住民（企業等含む）へのアプローチが必要である。住民主体の活動は、共感から活動が生まれる。作れと言って、作れるものではない。

「多様な主体の参加者を随時必要に応じて参画（企業等）」

ネットワークづくり

高齢者の暮らしの問題を**「我がこと」**として捉え、「地域まるごと」の関係づくり（多種多様な住民の関係づくり）周知と活動者の広がりをつくる
また、地域のテーマに関係するいろいろな方々が参画し、新たなたな関係性をつくる



社会資源
・コンビニ
・特別養護老人ホーム等

地域資源
・地域サロン・草刈・ゴミだし
・送迎支援・健康体操等

医療福祉を考える会議とは

地域の中で高齢者の暮らしの問題を**「我がこと」**と捉える住民主体（地域の状況に合わせた）の共感の場で、「地域まるごと」の関係をつくります。

多くの住民（多種多様な住民の参加）の関係づくりをつくるために周知を図る。（活動者の広がりをつくるきっかけとなります。）

この会議の大切なのは、高齢者の暮らしの問題を「我がこと」のように捉えることである。

また、その暮らしの問題を解決する手段として、地域資源や社会資源を知り、住民へ周知する。

地域での高齢者の暮らしの問題が見え、地域ごとに**「テーマ」**を設定し、「解決への物語」＝ビジョン＝未来性があることが大切であり、あきない共感できる場を長く続けていくことが大切である。

市・市社協・地域包括の連携強化（専門職・専門機関の連携強化）

地域と一緒に暮らしの問題を解決する活動を考え、その活動に寄り添いながら専門職・専門機関等が支援できる仕組みを考える。※専門職・専門機関の連携なくしては、地域福祉活動は生まれないし、継続はない。

市の役割は、生活支援活動を支えるための基盤（活動補助制度の創設等）を整備する。

市社協の役割は、生活支援活動の広がりや活動の芽をつくり支援する。

地域包括の役割とは、高齢者の暮らしの問題を整理し、住民と共感する。